

## 秘話「上を向いて歩こう」

坂本九さんが飛行機事故で亡くなってから明日で30年目になります。

それで、来年のリリオコンサートの第2部は、坂本九シリーズです。

既に練習が始まっている「上を向いて歩こう」の他に、「見上げてごらん夜の星を」「ジェンカ」ほか1曲、計4曲が予定されています。

中でも「上を向いて歩こう」は、歴史に残る大ヒット曲です。

1961年8月、NHKの「夢で逢いましょう」で放送されたのが最初で、私が所帯をもった年ですからよく覚えています。

レコードが発売されたのはその年10月で、レコード売り上げ首位を3ヶ月間独走しました。作詞永六輔、作曲中村八大のゴールデンコンビですから、ヒットは当然ですが、永六輔さんはなぜか九ちゃんの歌い方に激怒します。

何が気に入らなかったのか？それは「♪うえをむういて」が「♪うへほむふひて」と聞こえ、ふざけた歌い方に思ったからだそうです

なぜそう思ったのか、理由があります。

### 「上を向いて歩こう」は60年安保闘争から生まれた！

「ひとりぼっちの夜」という詩から失恋で落ち込んだ時に作られたと思われるそうですが、永六輔さんは自身のラジオ番組で、60年安保闘争で落ち込んでいた時に作った、と告白しています。

永六輔さんは60年安保闘争の闘士だったのです！

彼は国会を取り囲むデモに参加し、そして敗北した心情を詩に書きました。「上を向いて歩こう」が世に出たのは、デモの翌年1961年です。

九ちゃんの歌い方をふざけていると六輔さんが思ったのは、安保闘争に敗北した自分たちをバカにした歌い方、と感じたからなのです。

それから55年経った今、国会周辺で反対デモが盛んに行なわれているにもかかわらず、安倍内閣は安保法案を強行採決してしまいました！

ア～～、なんちゅうこっちゃ！ 悲しい！ 涙がこぼれそうや！

私は今、六輔さんの心境です。

でも「上を向いて歩こう」を歌うと元気になります。

やっぱり悲しみを癒してくれる歌ですね。

### 「ひとりぼっち」か「ひとりぽっち」か

どっちでもいいように思いますが、これが大論争になっています。

配られた楽譜は「ひとりポっち」となっていますが、「ひとりポっち」と訂正されました。「～ポっち」か「～ぽっち」か、歌集によってまちまちです。

坂本九さんは「～ポっち」と歌っていますが、永六輔さんは歌手の裁量に任せているようです。

でも言葉にうるさいNHKは「ひとりポっち」を認めていないそうです。

NHKの人たちが拠りどころにしている「ことばのハンドブック」によると、「○ヒトリポッチ、×ヒトリポっち」とはっきりと書かれているそうです。

「ひとりぼっち」の語源からいうと、「独り法師」（ひとりぼうし）の変化した言葉で、「ぼうし」から「ぼっち」になりました。この場合の「法師」とは、「一寸法師」「影法師」のように、単なる「人」を指しています。

だから「ひとりぼっちの羊飼い」のように、「～ポっち」が一般的であることは確かですが、歌詞の場合は語感を重んじますので、この歌の場合はやっぱり「ひとりポっち」ですね。

なぜなら、「ひとりポっち」は「これっぽっち」の「ぼっち」と重なるので、より強く孤独感を感じますがどうでしょう。

### 星になった九ちゃん

痛まし飛行機事故で亡くなった坂本九さんは、昇天して星になりました。

「kyusakamoto」と名付けられた「小惑星6980」です。

「6980」は、永六輔、坂本九、中村八大に因む数字です。

直径数Kmというまるで星の王子さまが住んでいるような小さな星ですが、4.8年の周期で太陽の周りを永久に回っています。

坂本九さんの歌が永久に歌い継がれるように。

亀岡弘志(記)